

イタリア、ブルカノ火山とエトナ火山

中野 俊・古川 竜太・大熊 茂雄・杉原 光彦(地質調査所)

火山を意味する英語“volcano”の語源となったブルカノ“Vulcano”島はシチリア(シシリー)島の北にある小さな火山島である、このあたりはエオリエ諸島と呼ばれ、ストロ

ンボリ、リバリなどの名の知れた火山もある。この島々の南のシチリア島にはこれらと比べ桁違いに大きなエトナ火山がある。



1. 狭義のブルカノ火山であるフォッサ火砕丘。山体の大部分はマグマ水蒸気爆発による火砕サージ堆積物(淡褐色の部分)であり、表層部にはのみブルカノ式噴火の堆積物が認められる。西方レンティア山より。



2. フォッサ火砕丘から見たブルカネーロ、ブルカノ島と砂州で陸続きになっている。火砕丘のまわりに溶岩の平坦面が広がる。山頂部には3つの火口があり、海に面した浸食崖には岩脈が見られる。遠方はリバリ島。

(関連：本文32ページ)



3. フォッサ火砕丘を起源とする火砕サージ堆積物の表面構造。単層ごとに形状や色調が異なる複雑な岩相を示す。液体状態の水を含む「濡れた」火砕サージだったために、さまざまな二次鉱物が生成したと考えられている。



4. ブルカネーロの溶岩流、溶岩平坦面の西海岸に発達した海食崖に露出する。遠景はリバリ島。



5. リバリ島の黒曜岩の溶岩流。ブルカノ島フォッサ火砕丘北西斜面にも1775年に流出した黒曜岩の溶岩流があるが、リバリ島には北東部のモンテ・ピラト軽石丘から流出したもっとみごとな黒曜岩溶岩の露頭がある。この写真では垂直に近い流理構造が見える。



6. フォッサ火砕丘の火山口、南東側からもっとも噴気活動が激しい地帯を望む、ひょうたん型に2つの火山口が接する、外側の火山口縁上を登山道がまわっている。



7. 硫黄の針状結晶。写真6の噴気地帯に見られ、いくつもある噴気孔の周囲に成長している。



8. 南側から見たフォッサカルデラと火砕丘、右側のカルデラ座には、古いピアノカルデラを埋めた溶岩流の崖が残り、左の低いカルデラ縁はレンティア火山。



9. エトナ火山の環状噴煙(2000年4月5日)。手前の火砕丘の左奥に活動中の火口がある。まれにみられる環状の噴煙がこの時は連続して2つ発生した。まだまだきれいな形になっていない。手前は3月21日のアア溶岩。



10. エトナ火山の環状噴煙。写真9の約20秒後に撮影。右方へ風に流されながら、だんだんと明瞭なリング状に変化していく。